



小山台

学校だより
3月号
令和6年2月29日
横浜市立 小山台小学校

「感謝と信頼のバトンパス」



校長 堀江 公子

いよいよ3月、令和5年度の締めくくりの時期になりました。先日、栄公会堂で個別支援学級の「合同学習発表会」が行われました。本校の児童は、「ありがとう～ずっとずっとともだち～」と題してこれまでの思い出を振り返りながら、一緒に活動してきたリーダーの6年生や友達への感謝の気持ちを踊りや歌で表現しました。6年生からのバトンを受け取り、一人ひとりが一生懸命に取り組む姿とありがとうの気持ちが会場の人々に伝わって、会場全体が温かい雰囲気になりました。

さて、3月は、リレーに例えるとバトンゾーンだと思います。一人ひとりが一学年上の自分にバトンを渡す月でもあり、学校全体の役割でいえば、6年生が5年生に、5年生は4年生に……2年生は1年生にバトンを渡す月です。特に、6年生は小山台小学校のリーダーの役割を果たしてきました。このバトンは重かったかもしれませんが、走りにくかったかもしれませんが、このバトンを持ってしっかりと走り切ることで、思いやりや責任感、中学校進学への自覚などを身に付けていきます。そして、5年生は、このバトンを引き継ぎます。もしかしたら、最初は、6年生のように上手に走れないかもしれませんが、でも、バトンをしっかりと受け取り、次になくように頑張ってくれることでしょう。小山台小学校では、このようにして44年間バトンをつなぎ、伝統を築いてきました。

そして、このリレーの極意は、「感謝と信頼」の気持ちにあると考えます。次走者は前走者の走りを決して批判せず、バトンをつないでくれたことに心から感謝して走り続けること。そして、前走者はバトンを渡した後、次走者の走りを信頼の気持ちをもってひたすら応援し続けること。そうすることにより、バトンをつなぐことが心をもつなぐことになるのだと思います。また、このバトンパスは、学校だけでなく家庭や地域社会でも同じ事が言えるのではないのでしょうか。

「リレーの極意は『感謝と信頼』。そして、そのバトンには、数え切れない人々の汗と願いと時間が込められている。」

今年度も子どもたちを支援していただいた保護者・地域の皆様に、心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。



子どもたちの学校生活の様子については、小山台小学校のホームページ「学校日記」に随時掲載しています。ぜひご覧ください。

